

はじめの一歩

3月31日（月）～4月1日（火）

IN 兵庫県立南但馬自然学校

	午前	午後	夜
1日目	施設まで移動	レクリエーション大会	キャンプファイア
2日目	清掃・野外炊飯	施設を出発・解散	

一日目： 春らしいよく晴れた空の下、JR 尼崎駅に全員集合し、二日間のキャンプがスタートしました。バスで約二時間半かけ、今回宿泊する施設へと向かいます。道中の車内では、グループで自己紹介をして顔と名前を覚え、リーダーによる楽しいミニゲームで親睦を深めました。ゲームに応じてポイントを獲得することができ、高得点を目指して大盛り上がりでした。バスの中で沢山楽しむと、あつという間に施設に到着です。丁度お昼の時間になつたので、青空の下でお弁当をいただきます。桜の木の下を選び、春を感じながら食べるグループもありました。食後は、午後のレクリエーションに向けて、グループで自由に過ごしながら少しずつ身体を動かしていきます。ここで、あるグループが“はないいちもんめ”を始め、それがもう一つのグループにも伝染し、最後はみんなで行い盛り上りました。“はないいちもんめ”は、その後の空き時間にもよく行われ、今回の参加者の中での流行遊びとなりました。みんなの距離が縮まったところで、[レクリエーション大会]へと移りました。今回挑戦していただいたレクリエーションは全六種。毎試合の順位でポイントが貯まっていくため、かなり白熱した戦いとなりました。「勝ちたい。」という想いから作戦会議で意見がぶつかり合う場面も見られましたが、納得するまで話し合ったことでそれが勝利に結びつき、グループの絆がさらに深まつた様子でした。レクリエーション大会は大接戦で幕を閉じ、少し体を休めるため、宿泊するロッジへと入りました。夕食までの時間は、部屋のベッドにシーツを敷いたり、お風呂の準備をしたりと身の回りを整えてから、ロッジ内を探検するなど自由に過ごしました。夜は、食堂で美味しい夕食をいただき、お待ちかねの[キャンプファイア]の時間です。みんなで輪になつて火を囲み、まねっこゲームやダンスなどをして、笑顔が絶えないあつという間の時間でした。夜も更け、みんなの表情に少しずつ疲れが見えてきました。入浴を済ませて布団に入ると、すぐに寝息が聞こえてきました。

二日目： 朝になると、まだ眠い目をこすりながら起床し、「おはよう～。」と挨拶を交わす声が聞こえました。朝の着替えや持ち物準備は自分自身で行います。身支度が整うと、続いてロッジ内の清掃に取り掛かりました。グループの部屋やみんなで使つた場所を隅々まで掃除し、ロッジを元来たようにキレイな状態にしてから、次の活動場所へと出発しました。この日は、一日野外キッチンで過ごしました。まずは朝食作りから始め、キャンプ定番朝食の[パックドック]を作りました。初めて自分で作る朝食に、みんなの気分が上がります。完成したら、出来立てホカホカの状態でいただきます。あまりの美味しさに二つ目をおかわりする方も多くおられました。朝食が済んだら、次は昼食作りです。メニューは、みんな大好き[カレーライス]。そこに、昨日のレクリエーションで貯めたポイントを交換して貰える食材が加わり、普段とは一味違う“スペシャルカレー”を作ります。野菜チームとかまどチームに分かれ、一体どんなカレーが出来るのか、みんなワクワクしながら作り始めました。



作る工程の中で、刃物や火といった“危険なモノ”も扱うので、リーダーの話をよく聞きながら、安全に楽しく調理を進めていきました。グループ内で声を掛け合い協力して作り、あつという間に完成です。いただきますをして食べ始めると、「みんなで作ったから美味しい！」、「おこげが出来ちゃったけど、それも美味しいね。」などと談笑する様子が伺え、その和気あいあいとした雰囲気に、二日間でのグループの仲の深まりを感じました。鍋いっぱいのカレーを完食し、お腹いっぱいになつたら、最後に片付けを行います。鍋の油汚れや焦げ落としは手間がかかりますが、次に使用する人がキレイな状態で使えるよう、一生懸命磨きました。片づけを終えると、もう解散に向けて出発する時間です。施設に別れを告げ、バスに乗り込みました。帰りの車内では、疲れて眠っておられる方がほとんどでした。JR尼崎駅に到着してバスから降りると、いよいよお別れの時間です。みんなでまた再開を願って「またねえ～！！」と元気よく挨拶をしてそれぞれの帰路へと就きました。



<キャンプ総括>

この度は、スプリングキャンプ“はじめの一歩”にご参加いただき誠にありがとうございました。今回は、少人数のアットホームなキャンプとなりましたが、たった二日間でも参加者同士の距離がしっかりと縮まっていたように思います。そのきっかけとして、やはり大きかったと思うのが、初日の自由時間に始まった“はないちもんめ”です。最初は一つのグループが始めた遊びが、周囲から見ているととても楽しそうで、もう一つのグループから「寄せて～！」と声がかかり、次第に遊びの輪が広がっていきました。他キャンプの参加者も羨ましそうに眺めるほど、全力で声を出して盛り上がる姿が輝いており、改めて参加者の【楽しむ力】を感じました。距離が縮まった後も、レクリエーションや野外炊飯といったプログラムを通して、みんなで取り組む仲間意識が自然と芽生えていました。人数が少なく、キャンプ開催前はみんなが楽しめるか懸念しておりましたが、そんな不安も一瞬で吹き飛ぶほど参加者からパワーをいただき、無事に二日間を終えることが出来ました。春キャンプが終わると、新年度が始まります。新しい環境でも、初めて出会う人の縁を大切にして、日々の生活を楽しんでいただきたいと願っております。 (生田 千恵)